

自然に学ぶ技術論 B		講義	教授 藤井 浩	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの選択必修科目、会計ファイナンスコースの選択必修科目、経営・経済コースの選択必修科目	科目ナンバリング	23111102	

1. 授業のねらい・概要

高度化し続けてきた科学技術は、私たちの社会を豊かにする一方で、さまざまなしみを生み、時に重大な危機をもたらしている。そんななか、長い時間をかけて蓄積されてきた先人の技術、知恵をもう一度見直そうという機運が高まっている。本講では、「自然への畏敬の念」を重視した3人の先覚者を取り上げる。明治期に農業改良の実践、指導に力を尽くした旧富士見村出身の船津伝次平、江戸時代に前橋で利根川の氾濫を防ぐ治水事業を成功させ住民を救った安井与左衛門、上野村村長を10期務め、全国の過疎地域のリーダーとして多くの業績を残した黒沢丈夫、生涯をかけて原発問題に取り組んだ前橋市出身の市民科学者、高木仁三郎の自然論、技術論等を、最新の地球温暖化、自然災害のニュースを折り込んで解説。本来の技術の在り方を考えるうえで不可欠な基本を学んでもらう。

2. 授業の進め方

- ・毎回、レジュメを配布、画像や資料をもとに解説する。
- ・授業中、受講者には、紹介する技術、人物に対する感想、意見、質問を求める。
- ・毎回、講義の最後に課題を出すので、それに対する解答、コメント、質問（短文）を書いて提出する。
- ・試験期間中にレポートを提出する。テーマは講義内で知らせる。

3. 授業計画

1. 「自然に学ぶ技術論」とSDGs	10. 黒沢丈夫④（日航機墜落事故への対応）
2. 老農・船津伝次平①（「自然への畏敬を貫いた生涯」）	12. 黒沢丈夫⑤（自治の根本―市町村合併への異論）
3. 老農・船津伝次平②（赤城山の植林、水源涵養）	12. 高木仁三郎①（市民科学者として）
4. 老農・船津伝次平③（農事巡回教師として全国へ）	13. 高木仁三郎②（自然をどう見るか 宮沢賢治論）
5. 安井与左衛門①（利根川氾濫の歴史）	14. 船津伝次平、安井与左衛門、黒沢丈夫、高木仁三郎にみる「利他の心」「共助の精神」
6. 安井与左衛門②（石堤で治水）	15. ものづくりの未来―最先端技術・遺伝子組み換え（GM蚕）の可能性
7. 黒沢丈夫①（上野村の自然の教え）	
8. 黒沢丈夫②（海軍兵学校で学んだ生命の哲学）	
9. 黒沢丈夫③（過疎からの脱却）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習として、授業で取り上げる技術や人物について、可能な範囲で調べ、意見、感想を述べられるようにしておく。30分程度。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回提出してもらうコメントや質問等に対して、次の授業で評価、回答し、必要に応じて解説する。
また、試験期間中のレポート提出時に採点・評価のポイントを説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- ・科学技術の本来の在り方を学び、実社会で不可欠な技術思想の基礎を身につける。
- ・激甚化する自然災害などに備える知識、考え方を身につける。

7. 成績評価の方法・基準

レポート（50%）、毎回提出するコメント等（30%）、授業中の意見等（20%）。

8. テキスト・参考文献

毎回、レジュメを配布。参考文献はこの中で挙げる。

9. 受講上の留意事項

授業で取り上げる技術開発，環境問題，自然災害など関するニュースに関心をもち，知識を増やし，深めるよう心掛ける。受講学生との意見交換等を重視するため，受講人数を30名程度に制限する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。新聞社の記者，論説委員として，世界文化遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」や船津伝次平、黒沢丈夫、高木仁三郎らに関わる取材を重ねてきた。そうした経験をもとに講義を進める。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。